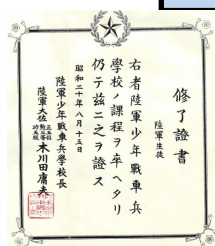


# 陸軍少年戦車学校の記録 P4



草に伏し 故郷の虫を 夢にきく

昭和十三年志那事変戦場にて

神様、武運長久ヲ祈ル

P3  
P4

日記の欄外に次の言葉が大きく太く書いてありました。

八月二十四日：警戒しつつ夜が明ける。敵は目前の河一つ離れた家屋だ。時々弾を放つ。何処からうつともわからない。一日は第一戦に暮れる。夕方、波止場に水を汲みに行っている間に、二年兵殿が足をやられる。心細くなる。そのまま夜の警戒。迫撃砲が頭上にて破裂。二発ばかり身体にばらばらと当たる。生きたうちなく夜が更ける。

## ある出征兵士の日記

# 広報ひがしの

人口1642人

（男）834人

（女）808人

637世帯

（R4.11.1現在）

## 疎開地としての東野

P2

### 戦後七十七年

七十七年、長い歴史の中ではほんの一瞬に思えます。

歴史は繰り返すとも言いますが、大きく振れた振り子がもとにもどり、この短い期間に逆の方向に振れはじめています。

ウクライナや台湾の状況を見るにつけ、暗雲が立ち込め始めたと思います。

私たちは、先の大戦の反省から、不戦の誓いをしたはずですが、しかし、戦争を知るものが少なくなり、その意識が薄れてきたのも確かです。

平和を引き継ぐことは大切であることはわかりますが、具体的に何をしたらよいのか戸惑います。まずは、戦時下の故郷の姿をいつまでも語り継ぐことが大切であると思い、今回の記事を集めました。

# 疎開地としての東野

## 学童の疎開

昭和二十年  
三月十一日  
に名古屋空

襲があり、ほとんどの学校が焼けてしまいました。多くの学童が田舎へと疎開しました。東野村にも御劔小学校の児童が宗久寺に來たという記録があります。疎開はその年の十一月まで続いたそうです。

## 軍服の疎開

空襲が激しくなると、人間ばかりでなく、大切なものも都会を離れて田舎へ疎開しました。

軍は、日本各地の民間倉庫会社に軍服の疎開を依頼しました。この地方は名古屋にある東陽倉庫という会社です。東陽倉庫は、駅に近く大きな民家が点在する田舎を探しました。結果、東野村が条件に合っているということで、中部地方の軍服の疎開地に東野村が選ばれました。

東野村は、駅（東野駅）に近くて物流が便利で、しかも空襲のリスクが少なかったからです。

また、養蚕をするので、多くの家が大きな造りで倉庫にするのに適していました。

東野駅で降ろされた物資は、一旦、東野小学校に運ばれ体育室（講堂）に保管されました。それから、各民家へと分散して運ばれていきました。

高等科の児童はそれぞれの民家へ分散し荷下ろしを手伝わされました。

## 軍需工場の疎開

学童や軍服同じように、兵器工場も空襲から逃れるために疎開をしました。

東野村には、中島飛行機の工場が疎開してきました。中島飛行機といえばゼロ戦を造ったところです。もちろん小さな部品の製造だったと思われます。

場所は、恵東座です。床をすべてはがして、全面コンクリート張りにして、そこへ旋盤を持ち込んでの作業です。

この時ばかりは、歌舞伎小屋も軍需工場に代わってしまいました。



## 学校（教習所）の疎開

東野に疎開していた国鉄の教習所へ入所した社員の当時の手記です。（鉄道新聞より）

・・・・・・・・・・・・・・・・

国民学校高等科を卒業して、国鉄に入りました。最初は研修です。しかし、名古屋の教習所が空襲で焼けてなくなったので、岐阜県恵那郡東野村に疎開中でした。

昭和二十年五月十六日、郷里の駅を一番の列車で出発しました。

おふくろが風呂敷包みの荷物を抱え、私はトランクを肩に担いで家を出ました。改札口を出て、跨線橋手前の柵越しに「元気で頑張れよ」といって風呂敷包みを渡してくれました。無言で受け取り、足早に跨線橋に上がりホームに出たら、おふくろの手を振る姿が見え、思わず涙が出てきました。

東野に着いたときは、二年生の先輩たちが迎えに来ていました。この東野という村は、養蚕が盛んなところでした。戦時中なのでもちろん蚕はいませんでした。蚕室が空いていて、これを生徒寮や教室に使ったのです。

・・・・・・・・



# ある出征兵士の日記

この日記は、東野在住の青年が二十才を迎えて出征する前後の日々の記録を残したものです。一兵卒の立場で書かれた日記からは、当時の兵士の状況が手に取るように伝わってきます。時は、昭和十二年、日中戦争が始まる年です。日記は、その年の正月から始まります。

どんな状況下でも、日記は毎日もれなくつけてありましたが、ここでは、ごく一部を抜粋して紹介します。

**一月五日（出征前）** 外は雨らしい。ゆっくり寝る。門出の支度。日は落ちるように暮れていく。何だか淋しい。

**一月七日（出征前日）** 門出の支度。七日市へ行って来る。夜は来客多数。おおいに騒がれる。これより一年半、祖父母、母、姉、妹としばしの別れだ。達者でいてくれ。

**一月八日（出征日）** いよいよ出発。飛び起きて神社に参拝。お暇乞いをして八時に家を出る。九時三十分発車の十一時四十分名古屋着。名古屋駅前の旅館に宿泊。



**一月九日**・午前九時、名古屋駅前の旅館を出発。熱田神宮を参拝。松坂屋に寄り、浜松へ行く友達を見送り午後一時に岐阜着。聯隊へ身体検査に行ってくる。

**一月十日（入營日）**・起床、午前六時。七時半兵営到着す。郡別別れ、中隊別、判別、衣服類、あらゆる準備をなす。兵営生活の一日は終わる。大いに奮発してやろう。・・・一生の思い出の第一日

入隊したのは岐阜の長森にあった陸軍歩兵第六十八聯隊です。日記の記述には、第九中隊とありました。

**一月二十日**・今朝は大変寒かった。銃剣術の練習。午前中の演習は正照準。午前中は早く終わって室内にて行ふ。午後は、照準伏射の演習。給料をいただく。二年兵殿は夜間演習あり。

日記を拝見してまず気付くことは、検査が多いということです。人数点呼に始まり、軍服検査、兵器検査等々です。

**三月三日**・大隊の軍装検査。午前9時40分整列終わり。10時より検査。午前中に終わる。午後には内務実施。大隊長が交代する。明日は、聯隊の軍装検査がある。

**五月八日**・待ちに待った軍旗祭りが今日だ。7時半整列。練兵場へ行き分裂式が終わりたる時、10時頃だった。班内一同会食し、衛兵に行かれた二年兵殿が見えない為に一抹の寂しさ。今日は、中隊当番で忙しくて少しも面白くなかった。しかし、無事に終わって何よりでした。明日から一段と気合を入れて奮発してやろう。奮闘努力。

**八月十三日**・上等兵勤務を命セラレル

午前7時整列終わる。今日は長良川にて毛布洗いだ。小生監視人として、自動車で行く。行きてすぐに洗いに入る。なかなか洗えない。暑い暑い一時頃には準備をして一服。2時30分頃帰る。そして直ちに日直上等兵として勤務、何だか何だか分からないことに一日も空しく暮れて・・・

**八月十四日**

**動員下令**

**八月十四日**・今まで静かな営内が一度に騒ぎ立ってしまった。いよいよ戦線だ。神様よ守り給え。



中国上陸の兵士

**歩兵第六十八聯隊は、八月二十三日に上海近郊に敵前上陸をしました。**

**八月二十三日**今朝見れば陸地が見える。目的地近くだ。夕方目的地に着き、荷物を上げる中に、射撃を受ける。忽ち応戦。約一時間かかって十二時頃第一戦に着き、夜明けには最前線に着き、警戒す。

**日記の欄外に次の言葉が大きく太く書いてありました。**

**神様、武運長久ヲ祈ル**

**八月二十五日**7時を期して飛行機の爆撃があるためにここを引き揚げる。中隊本部の配置に入って警戒。暑いのにいかれてしまふ。はやく片づけなければいけない。

**歩兵第六十八聯隊は上海の攻略を果たし、その後、南京攻略に向かいます。**

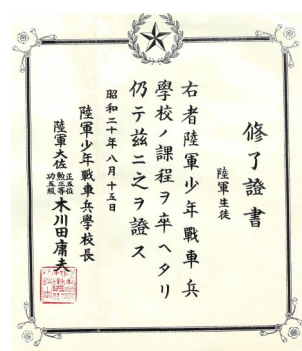
**十二月十三日**正午前進命令。南京まで二日間。連続行軍にて午後二時、目指す南京通済門に到着。門は堅く閉ざされている。

略・・・・・・・・

日記の作者は昭和十六年に復員し、戦後の復興に尽力されました。



## もう一つの戦場 陸軍少年戦車学校の記録



東野在 住で15歳の年齢で、七期生として静岡にある陸軍少年戦車学校に入学し、卒業を待たずして終戦を迎えた少年がいました。

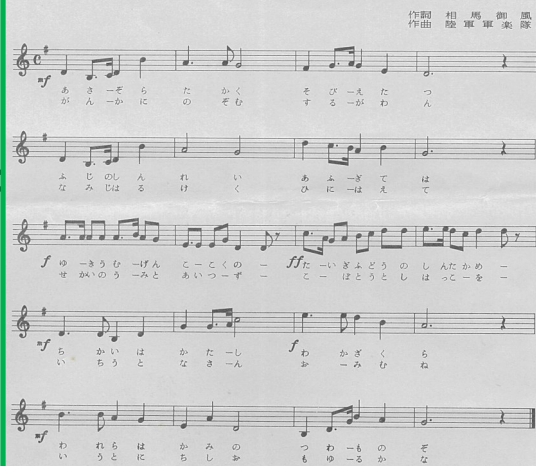
陸軍少年戦車学校は、当時、少年航空兵学校と並んで双璧をなすものでした。

愛称を若獅子、豆タンクと呼び、航空兵学校は、若鷲と呼ばれていました。

一期生から七期生まで在籍しましたが、一期生の入学生は、525名で、応募者は8229名で、実に55倍の倍率でした。狭き門でした。

七期生は昭和20年3月7日に入学しましたが、8月15日に終戦になりましたので、17日付けで休暇届けが出され、そのままになったようです。

### 陸軍少年戦車兵学校校歌

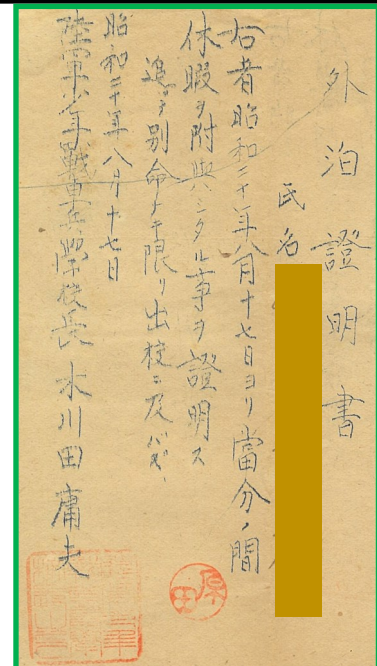


- 朝空高く聳え立つ  
不二の神嶺仰ぎては  
悠久無疆皇国の  
大義不動の信高め  
誓は堅し若桜  
われらは神のつはものぞ
- わが日本は神の国  
神にまします大君の  
御櫓のはまれいだきて  
みことかしこみ一すじに  
忠魂武胆燃るところ  
命も何も惜しからん
- 眼下に望む駿河湾  
波路はるけく日に映えて  
世界の海と相通ず  
皇譚たふとし八紘を  
一字となさんおほみむね  
雄図に血潮然ゆるかな
- つわもの我等御諭の  
みむねひたすらしこみて  
研鑽錬磨時來なば  
萬里進撃先駆けて  
奮迅突破陸戦の  
華とぞ咲かん戦車魂

親族の方からお借りしたものは、修了証書と外泊許可書、そして校歌の書いた楽譜です。

8月17日付けの外泊許可書には、「追って別命なき限りは出校に及ばず」と書かれています。また、8月15日付けの修了証書には、生徒の名前が白紙になっています。

終戦直後でよほど混乱していたことが伺えます。



# ちょっと昔の東野を知ろう 第2回 東野勉強会

2年前に刊行した東野アーカイブスの活用の一環として「東野勉強会」を実施しました。

今回は昨年に引き続き2回目になります。

講師に小野川の三宅一嘉さんをお招きし、特に、戦時中からその後の昭和の時代を振り返っていただきました。

お話の内容は、大きく3点、蚕の話と歌舞伎の話、そして戦時中の東野の様子です。

## 東野の養蚕

養蚕という

より、東野は蚕種で栄えた所です。〇〇館と屋号がついている家は、昔、蚕の種屋でした。例えば、大 正

館、や伊藤

館、篠原館

と呼ばれた

ところでは

す。画用紙

に種を張り

付けて売り

ました。



## 東野の地歌舞伎

昔の娯楽は歌舞伎でした。時期に

なると歌舞伎の練習ばかりやっていた。上組は公会堂で、下組は宮の前の西尾一郎さん宅で練習をしました。

恵東座で公演をしましたが、二日間行いました。演目は両日とも同じで、一日目で失敗したことを二日目で修正しました。

## 戦時中の様子

名古屋空襲の音が東野まで聞こえました。

大映座（映画館）より映画のフィルムを借りてリヤカーで運んでいるとき、公文橋のところで、西の方からドーンという音がしました。それが名古屋空襲の音でした。

その空襲でほとんどの名古屋の小学校が焼けてしまったので、名古屋から小学生が東野へ疎開してきました。その子たちは、宗久寺に泊まりました。勉強も生活も宗久寺でしたので、地元の子供たちと交流することはありませんでした。

よく空襲警報が鳴りましたが、学校に近い子は、家へ避難しましたが、遠い子は、恵東座の軒下に避難していました。

## 戦後の様子

東野も例にもれず、戦後復興は厳しいものでした。

保古尻より上の山は、原野でしたので雑木を切って、それを集めて、焼いて炭を造りました。その炭をカマスに詰めて家に持ち帰りました。その日の日は、そのカマス一杯の炭でした。それほど貧しかったです。持ち帰ったカマスは、しばらくの間外に置いていました。なぜかという、まだ炭に火が残っていることがあり、すぐに家の中にいれてしまうと火事になる恐れがあるからです。実際に火事になった家があったそうです。



雑木がなくなつた山には、檜の苗木を植樹しました。あれから七十年ほど、木も大きく成長しています。

## なつかしいスケート靴？

三宅一嘉さんの講演の中に、保古の湖のスケートの話がありました。それを聞かれた千藤市議が昔のスケート靴をコミセンに持ってみえました。

なんでも昔の懐かしいものに興味があるそうで、オークションで買ったということです。

物は、下駄スキーです。今のスケートは、スケートの刃が靴についていますが、それ以前は、下駄に刃がついていました。

下駄だと足首が固定できずに、くねくねするので、足首を荒縄でぐるぐる巻きにして滑ったそうです。

今回貸していただいた下駄スキーにはうっすらと前の持ち主の名前が書いてあります。どうも女性の名前のようです。どつりで小ぶりの感じがしました。

コミセンにしばらくお借りしていますので、見てみたいという方は、ぜひ来てください。

東野ふれあい作品展にも展示させていただきました。



9月13日（月）に4年生と5年生の総合的な学習で、稲刈り体験が行われました。

### 稲刈り体験



5月に植えた苗が順調に育ち、黄金の稲穂が頭を垂れていました。

当日は天気にも恵まれていましたが、雨上がりでしたので、地面からの湿気が多く、蒸し暑い状況でした。

子供たちは、教えてもらったように、鎌で稲を刈り、小さな稲の山を作っていました。

その後、麻ひもで縛り、はざ掛けをして体験学習は終わりました。

暑い日でしたが、子どもたちは最後までやり通しました。

### 除草作業

今年は雨に恵まれ稲穂も順調にそだちましたが、草もよく育ちました。

小学校の運動場も、運動会を前に草に覆われてしまいました。そこで、少しでも除草のお手伝いをしようと、事務局と推進員とで草取りをしました。軽トラの後ろに鉄の爪とブラシをつけて引っ張りましたが、なかなか取れるようなものではありません。ついには諦めてしまいました。

その後PTAの方たちの奉仕作業できれいになりました。

### サツマイモの収穫

春に植えたサツマイモの苗が成長し収穫の時期を迎えました。十月二十六日（水）の朝から東野小学校二年生の児童が学校の畑でサツマイモの収穫をしました。品種は、安納芋と紅はるかです。推進員の丸山さんと東雲会の松浦さんの支援でたくさんさんのサツマイモが収穫できました。



## 東野音頭のルーツを探る

先日、東野小学校の校長先生が子供たちの教材にしたいということで、東野音頭のルーツを探しに見えました。曲の入ったテープはありましたが、音頭ができた経緯などの記録があまりありませんでした。そこで、地域学校協働活動の推進員である丸山文恵さんをお願いして、調べていただきました。

### 東野音頭のルーツ

昭和22年ごろ、貴船・若宮神社の境内で旧暦の2月の初午の日に青年団の男女によって盛大に踊られていたそうです。

東野音頭の原作者は市川広利さんで、作詞は西尾狂果さんでした。西尾狂果さんは俳句者で、本名は西尾利一さんです。

### 当時の地域の様子

第2次世界大戦が終わり、東野国民学校が東野小学校と名前が変わったころです。

戦後の荒廃の時期で、日本が最も貧しい時でした。東野の住民も生きていくために

必死になって暮らしていた頃です。せめてもの娯楽に、東野音頭が生まれたのだと思います。

### 継承されてきた歴史

世の中が落ち着くにつれ、歌舞伎などの娯楽に興味に移り、昭和26年ごろから途中一時停滞気味になりました。

昭和57年第一回東野の納涼夏祭りが開催されましたが、その時はまだ、東野民謡クラブで踊られていたくらいです。東野民謡クラブは、西尾甲子男さん、神谷正枝さん、土方千恵子さんたちが中心となって活動して見えました。

昭和63年の第7回の東野納涼夏祭りで、東野音頭が復活しました。その背景には、当時中野方音頭が話題となっており、この地域にも東野音頭があるということと復活の声がかかりました。原作者の市川先生と公民館長の西尾さんらが相談し、復活に乗り出しました。当時の小学校長の西尾嘉夫先生も協力し、音楽室を練習の場に貸し出していただきました。小学生にも踊りを教え、総括者の伊藤公博さんの指導により、生演奏も加わり、夏祭りは大成功でした。

### 花無山句会自選句

（令和四年十月二十七日）

- ・花茗荷 草の中から 一握り 市川芳子
- ・蠅打てど 打てば逃げられ 老ひの腕 千藤猛司
- ・秘焼いて 栗の一年 終わりにけり 千藤恵三

### お詫びと訂正

広報ひがしの十月号の「第18回恵那市陸上競技大会」の記事の中で、人名の間違いがありました。謹んでお詫びし訂正させていただきます。

誤 池戸 陸

正 池戸 陸人

### 東野地域安全パトロール

（12・1月）金曜日16:00～17:00

12月	
9日	東野開発振興会
16日	東野開発振興会
1月	
13日	東野自治連合会（上）
22日	東野自治連合会（下）
27日	東野小PTA



## 乳幼児学級 すくすくクラブ



10月は東野こども園を訪問しました。園の子ども達と一緒に人形劇団「おすび座」による「フーとフー」「ぐるんぱのようちえん」を観ました。すくすくクラブのことも達もいいひと時を過ごすことが出来ました。

### 施設利用のお願い

施設利用されるかたは、

「使用許可申請書」での申請が必要になります。「コミュニティセンター」は3ヶ月前、小学校施設は1ヶ月前から申請可能となります。また電話でのお問い合わせは仮申し込みとなります。必ず窓口にて「使用許可申請書」に記入して頂くようお願いいたします。

＊利用前、利用後に事務所へお声掛けください。（特に、土日や祝日、夜間は職員が一人しかおりませんので、よろしくお願いいたします）

＊利用後は机・椅子・座布団など使用したものを元の場所に戻し、除菌・掃除機・モップ掛け・窓の施錠・ガスの元栓確認などをお願いいたします。

＊施設及び設備を破損または汚したときは、直ちに届け出、職員の指示に従ってください。（届け出がなく当方で発見した場合は、以後の使用は許可できなくなります）

＊今後とも皆様が気持ちよくご利用いただけますようご理解とご協力をお願いします。

### サツマイモの収穫

春に植えたサツマイモの苗が大きく成長し収穫の時期を迎えました。子ども園でも小学校でも園や学校の畑のサツマイモの収穫が行われ、子ども達がその大きさに歓声をあげていました。

ただの芋ほりですが、これがまた大変で、スコップや備中で耕せばすぐ収穫できるように思えますが、いきなり道具を使うと間違ひなく芋を傷つけてしまいます。なので手で掘るのが基本です。

サツマイモは掘ってみると四、五本固まって土に埋まっていますが、掘ろうとすると土が締まっていて堅くてなかなか掘り出せません。一本掘るのがとても大変です。これが四本も五本もとなると大変に思えます。

しかし、掘ってみると、二本目からは一本目を抜いた後のすきまができるので意外と簡単に掘れるのです。三本目、四本目とだんだんと楽に掘り出せます。要するに、一本目を頑張れば二本目からはさほどのことはないので。

だんだんとコツがわかってきて、掘り進めて行くと、気づけば全部終わっていました。

「大変だな！と思われることも最初の一步を踏み出せば、意外と楽に片付く」などと教訓じみたことを感じたサツマイモの収穫でした。



### 発行

東野コミュニティセンター ☎二六―二五五  
東野地域自治区運営協議会 ☎二六―二四四